

公民科における現代の諸課題を扱った主権者教育の授業開発

—ウクライナ戦争を扱った授業実践報告—

地歴公民科 青山昌平

2022 年 2 月から始まったウクライナ戦争や 2023 年 10 月にはイスラエルとパレスチナの間で軍事衝突が発生し、多くの人々が犠牲となっている。教科書の内容を発展させた、このような現代の諸課題を扱った授業が求められている。そして、これらの内容を戦争の悲惨さを学ぶ平和学習としてではなく、戦争の構造や発生の原因・理由、戦争の影響など多面的に学ぶことで、これからの社会を担う一員としての必要な資質・能力の育成につながるのではないかと考えた。「公民としての資質・能力の育成」が新学習指導要領の目標に盛り込まれる中で、令和 4 年度の 3 学期に主権者教育を意識したウクライナ戦争の授業を実施し、その効果を検証した。

<キーワード>ウクライナ戦争 主権者教育 公民としての資質・能力

1. 主題設定の理由









(1) 主権者教育の必要性

2022 年 4 月から 18 歳が成人年齢になったことは、高校においてとても大きな変化である。高校 3 年生の生徒たちが在学中に成人年齢に達していくことで、契約や選挙といった高校生の間にはできるようになることが増えた。これにより、今までよりも「成人」に関する学習が求められるようになってきている。こうした学習における地理歴史科と公民科の授業が担う役割は大きくなっている。そして、学校教育で行われるいわゆる主権者教育を地理歴史科と公民科の授業で行う重要性はより一層高まっている。主権者教育が必要とされている背景には成人年齢の引き下げだけでなく、投票率の低さもある。総務省の統計によると、令和 3 年 10 月に行われた第 49 回衆議院議員総選挙では、全年代を通じた投票率は 55.93%で、そのうち 10 歳代が 43.21%、20 歳代が 36.50%、30 歳代が 47.12%、60 歳代の投票率は 71.43%で 70 歳代は 61.96%となっている。また、令和 4 年 7 月に行われた第 26 回参議院議員通常選挙では、全年代を通じた投票率が 52.05%で、そのうち 10 歳代が 35.42%、20 歳代が 33.99%、30 歳代が 44.80%、60 歳代の投票率は 65.96%で 70 歳代は 55.72%となっている。投票率の現状を見ると、全体の投票率が半分程度で国民の政治への興味・関心が高いとは言えず、特に若年層の投票率の低さが課題であることがわかる。このような状況を改善するためにも、主権者教育の必要性が高まっている。

(2) 研究主題の設定

この若年層の投票率の低さは最近言われている課題ではなく、長らく改善されていない課題である。平成に衆議院選挙は 10 回行われ、令和 3 年の選挙より 20 歳代の投票率が低い選挙は 4 回あり、最も投票率が低いのは平成 26 年の 32.58%である。若年層の政治的関心の低さや投票率の低さは 18 歳成人となった最近の課題ではなく、日本社会の長い間の課題と言える。そのため、主権者教育は長らくその必要性が訴えられ、実践されてきたが政治的関心の低さや投票率の低さの改善はできていない。この課題を解決するための主権者教育の取り組みは今後も必要とされる。そのような中で、私は主権者の育成に効果がある授業を行いたいと考え、今回は特に現代の諸課題を取り上げた授業の授業開発を試みた。

【表 1】 単元構成一覧（学習課題の中で斜体で記載してある問いは生徒から出た問い）

単元テーマ		「ウクライナ戦争から、私たちはどのような理由で戦争を否定できるだろうか？」	
	学習課題	授業手法	プリント PDF
1	【単元のガイダンス】 「ウクライナ戦争を学ぶ意味とは？」	1 ウクライナ戦争を学ぶ意味は？【個人→周囲】 2 ウクライナ戦争をどのように批判すべきか？（資料読み取り）【個人→周囲→指名】 3 単元テーマ、各時の問いの確認（スライド提示） 4 ウクライナ戦争をどのような視点で学ぶか？【個人→周囲→指名】	
2	【戦争と国際関係】 「どうやってウクライナは長期戦に耐えられる軍事力を維持しているのか？」 「ロシアと仲の良い国は、どのような動きをしているのだろうか。」	1 ジグソー学習による国際関係の整理 (1) エキスパート活動（個人の資料読み取り） ①ウクライナに関わる国とその支援 ②ロシアに関わる国とその様子 ③国連決議などから見る国際関係 (2) ジグソー活動（グループ活動） 2 国際関係の様子を図で整理（関係図マップ） 3 振り返りとまとめ	資料 
3	【戦争の原因・理由（歴史）】 「ロシアはなぜウクライナに執着するのか？ウクライナはなぜ侵略を受けているのか？」	1 プーチン論文の読み取り 2 ジグソー学習 (1) エキスパート活動（個人の資料読み取り） ①キエフ・ルーシとウクライナ戦争 ②コサックとウクライナ戦争 ③ソヴィエト連邦とウクライナ戦争 (2) ジグソー活動（グループ活動） ①侵攻を受けている歴史的な理由を図で整理（クラゲチャート） ②まとめ「ロシアはなぜウクライナに執着するのか？ウクライナはなぜ侵攻を受けているのか？」 3 振り返りとまとめ	
4	【戦争の原因・理由（最近の国際政治）】 「ウクライナはなぜ NATO の加盟を目指しているのか？」	1 前時の復習（歴史的な要因） 2 ロシアとウクライナの地理的なつながり（地図と言語）【個人→周囲→指名】 3 ジグソー学習 (1) エキスパート活動（個人の資料読み取り） ①ウクライナはなぜ NATO の加盟を目指すのか？ ②ロシアにとって NATO はどのような存在なのか？ ③ロシアが軍事侵攻する理由は何か？ (2) ジグソー活動（グループ活動） ①ロシアはなぜ NATO 加盟を侵攻理由に挙げているのか？（Y 図） ②まとめ「ロシアにとって NATO の拡大はどのような脅威があるのだろうか？」 4 振り返りとまとめ	
5	【戦争と人権】 「ロシア国内では情報規制によりどのような影響があるのか。」	1 時間目（30 分程度） 1 戦争によってどのような人権が制限されるか？侵略する側・される側で考える【個人→周囲→指名】 2 ジグソー学習 (1) エキスパート活動（個人の資料読み取り） 〈 ロシア側 〉 ①徴兵される戦闘員②戦争中の知る権利③経済活動の制限④戦争反対が言えない人たち 〈 ウクライナ側 〉 ①市民の被害 ②徴兵令、総動員令 ③教育が受けられない子ども (2) ジグソー活動（グループ活動） それぞれ読み取った人権侵害の内容を表で整理する 2 時間目（50 分） 1 自分が担当しなかった資料を 1 つ選んで、その資料内容やそれについて考えたこと・感じたことを記入【個人→周囲→指名】 2 「戦争は、その地域に住んでいて困っている人を救うための手段として適切か？」、「戦争は人権を守るための手段となるか？」について、今回の人権侵害の例を使いながら考える。 【個人→周囲】 3 周囲と意見交換をして考えたこと・感じたこと 4 振り返りとまとめ	 
6	【戦争と経済】 「戦争が与える経済への影響とは何か？ガソリン価格の高騰は何によってなのか。」	1 ネットニュース記事の空欄補充 2 ジグソー学習 (1) 2 つのテーマに分かれて、グループ内で資料を分担して読み、2 つの問いに答える 〈 エネルギー問題 〉 ①エネルギー情勢②原発新增設（LNG）③ドイツの「脱ロシア」④欧州エネルギー危機 〈 食糧問題 〉 ①小麦高騰 ②食の危機 ③食糧危機（日本や世界） ④世界の食糧危機 (2) ジグソー活動（グループ活動）…共有後、2 つの問いに答える 3 振り返りとまとめ	
7	【単元のまとめ】	1 単元のまとめ「ウクライナ戦争から、私たちはどのような理由で戦争を否定できるだろうか？」を記入 2 2 人と交換し、相互評価 3 振り返り・アンケート回答	

(3) 現代の諸課題を取り上げる理由

政治への興味・関心を高めるためには、現在発生している社会的な課題について授業の中で触れ、その課題を生徒が考える授業が必要であると考えた。教科書の基礎事項だけで学習を終えるのではなく、現実に発生している社会的な課題を取り上げることで学習内容が生徒にとってより現実的で生活に近い内容となり、学習に対する興味・関心が増すだろう。

そして本実践では、2022年2月に発生したウクライナ戦争を扱うことにした。連日新聞やニュースに取り上げられ、生徒が目にする機会も多く興味・関心が高く、意欲的に学習に取り組めると考えた。

(4) 平和教育ではない戦争に関する学習

戦争を題材とした学習では、戦争の悲惨さに意識が向いてしまい、「戦争は悲惨な状況を招くから悪いことである。」という結論や印象を残してしまうことがある。平和な社会を希求する態度に結びつく可能性はあるが、平和な社会を構成する一員として何が必要なのかを考える授業にはなっていない可能性がある。そのため、平和教育で終わらずに、さらに一步踏み込んで、「どうすれば、政府が戦争に向かうことを止められるのか？」など、「国家を形成する一員としてどう考えるか？どうすればよいのか？」を考えさせる場面が必要なのではないかと考え、戦争に関する学習ではあるが、主権者として必要な資質・能力を育成ができる授業を目指して授業を行った。

2. 授業実践の目的と検証の手法

以上から、今回の授業実践の目的は、高校公民科におけるウクライナ戦争の授業開発と主権者教育としてのその有効性を明らかにし、主権者教育に関する研究につなげることである。

そのために、次のような方法で授業実践を行い、その検証を進めることとする。一つ目は、主権者教育として必要な目標を設定し、それを満たす単元を構想して授業実践を行う。二つ目は、単元のまとめ、各時の振り返りや感想、事前・事後アンケートの内容に関する分析や検証を行う。

3. 授業実践

(1) 単元構想

単元構想を作るときに意識した点は以下の三つである。一つ目は多面的・多角的に学び、自分の考えを構成すること、二つ目は他者と関わりながら学ぶこと、三つ目は、生徒の疑問を集め、この疑問を中心に単元と授業を構成したことである。そして、単元のテーマを「ウクライナ戦争から、私たちはどのような理由で戦争を否定できるだろうか？」に設定した。ウクライナ戦争について多面的・多角的に学んだ後、単元のまとめを記述させ、単元の中では、自分の考えを他者との関わりの中で構築していくことを目指した。そして、生徒の疑問を活用することで、生徒が授業の一員を構成している意識を持たせて、授業への意欲を高めることを狙った。

(2) 主権者に必要な要素と目標

主権者に必要な要素として、現代の諸課題に興味・関心を持つこと（学びに向かう態度、主体性）、現代の諸課題について、周囲と対話して議論すること（知識・技能）、現代の諸課題について、多面的・多角的な分析して、考察すること（思考力・判断力・表現力）の3つの要素をあげ、単元目標にまとめた。

【表2】単元目標

学びに向かう態度、主体性	現代の諸課題について、興味・関心を持ち、有権者として国政に参加する主体的な態度を身に付ける。
知識・技能	現代の諸課題について、周囲と対話しながら学習することで協調性や平和的に議論する力を身に付ける。
思考力・判断力・表現力	現代の諸課題について、多面的・多角的な視野で分析したり考察したりできる。

4. 単元のまとめやアンケート結果に関する分析と考察

(1) 各時の振り返りとアンケート結果から見たウクライナ戦争に関する知識の習得や学びの必要性に関する分析と考察

【表3】 各時の振り返り

(ロシア・ウクライナ問題に関する知識を深めることができたか)

4段階の自己評価の割合を表示 (時間数は表1 単元構想に対応)				
	4	3	2	1
2 時間目	52.5	47.5	0	0
3 時間目	60.0	40.0	0	0
4 時間目	58.8	38.2	2.9	0
5 時間目	60.7	39.3	0	0
6 時間目	64.5	35.5	0	0

【表4】 7時間目の感想と事後アンケートの感想の内容分類

* 1名で複数の記述がある場合はそれぞれ計上

【7時間目 (まとめ) の感想】		
人数	記述の項目	代表的な記述例
11 人	学ぶ必要性を実感 (次学ぶべきことなど含む)	戦争が起こった歴史的要因や被害はなんとなく分かったので、この戦争はどうしたら解決できるのか、そもそものような状態が解決した状態なのか考えたいと思いました。
26 人	他者から学びや気づきを得ている	他の人の意見を読んで、この戦争が他の戦争を生み出す危険性について考えさせられました。その面の視点は抜けていたので、新たな視点を持つことができました。
11 人	学習内容や知識の整理・確認	私は、ロシア・ウクライナの国民に及ぶ被害を重視していたけど、国際的に見ればさらに問題は大きくなるし、被害人数も大きくなるので戦争に関係のない人はいないと分かりました。
8 人	戦争を否定する内容・感想	戦争は多くの人権を侵害し、戦争をしたくない国民や戦争をしていない国にも影響を与えるので戦争はしない方が良いと思った。
【事後アンケート (ウクライナ戦争の授業全体の感想や印象)】		
人数	記述の項目	代表的な記述例
12 人	学ぶ必要性の実感	実際に起きている戦争から、戦争の是非についてを考え、どれだけの人権や自由が奪われて、当事者のみならずどれだけ世界に影響を及ぼしているのか理解できたので、有意義な授業が受けられたと思う。
20 人	自分の認識の変化	人権侵害についての学習が印象に残っています。今までは、兵士や、侵略された国の市民の被害が戦争の被害と考えていたけど、直接的に戦争に関与していない国や国民でも、何らかの影響があることが分かりました。
17 人	授業方法に関して	色々なことを学べて自分の意見を述べることができてよかった。
15 人	印象に残った内容 (多面的・多角的な内容)	ウクライナとロシアだけではなく、世界に影響があることを知った。戦争における両国の立場について知れてためになった。
5 人	その他の印象に残った内容	ロシアにも大きな被害があることが意外だった。食糧難がより酷くなっており、発展途上国への支援が行き届かなくなっていること。

毎時間の自己評価では、すべての授業で4段階評価の3と4の評価になっており、半数以上が4の評価となっている。また、7時間目の感想や事後アンケートの感想では、ウクライナ戦争について学ぶ必要性を実感している記述をしている生徒がいた。他の内容の感想でも、学びを深められている感想があった。そのため、ウクライナ戦争をテーマとした今回の授業は生徒に知識や学びを与えられた単元構想になっていたと言える。

(2) 各時の振り返りとアンケート結果から見た現代の諸課題興味・関心に関する分析と考察

【表5】 各時の振り返り

(世の中の様々な課題に対してについて興味・関心が高まったか)

4段階の自己評価の割合を表示(時間数は表1 単元構想に対応)

	4	3	2	1
2時間目	42.5	50.0	7.5	0
3時間目	57.1	37.1	5.7	0
4時間目	52.9	38.2	8.8	0
5時間目	85.7	14.3	0	0
6時間目	71.0	29.0	0	0

【表6】 事前・事後アンケート結果

(世の中の様々な課題に対して関心がありますか。)

	ある	少しある	あまりない	ない
事前	27.9	67.4	4.7	0
事後	35.6	51.1	13.3	0

各時の振り返りを見ると、2～4時間目と5・6時間目で大きな差がある。2～4時間目では、国際関係の様子や原因・理由を扱った。これらの授業では資料の量が多くなってしまい、読み取るべき内容も生徒にとっては難しかった。その反省から、5・6時間目では、課題と資料の難易度の調整を行ったため、授業の取り組みやすさが増している様子が見られた。また、5時間目では人権への影響、6時間目では経済への影響だったため、戦争によって発生している様々な課題に触れることができた。こうして様々な課題に触れられたことで、ウクライナ戦争と様々な課題への興味・関心が高まった可能性が高い。

事前・事後アンケートでは「世の中の様々な課題に対して関心がありますか。」に対して、「ある」と回答した割合は増加したが、「あまりない」と回答した生徒が増加した。事後アンケートであまりないと回答した生徒は6人おり、そのうち事前アンケートの回答で「ある」が1人、「少しある」が3人、「あまりない」が2人であった。「ある」と「少しある」から、「あまりない」に変化した4人の事後アンケートの回答では、ウクライナ戦争の学習について無関心と言えず、自分なりに学んだことや感じたことを述べられている。選挙に対する意欲を述べている生徒もいるため、世の中の課題について全くないわけではないが、自分にとって優先度が高い興味・関心になっていないと考えられる。

【表7】 事後アンケートの4人の感想

ロシアとウクライナの戦争のきっかけにもなった領土や民族の問題。
やはり戦争をしても誰も幸せにならないし、苦しむ人を増やすだけだと思った。
ロシアの天然ガス輸出の禁止など日本にも間接的に大きな被害があることがわかった。
今までふわっとしかウクライナ戦争について知らなかったけど、この授業を通して戦争が起こった経緯や世界に与える影響について知ることが出来ました。知れば知るほど酷いと思うし、どちらの国民も人権侵害されることが無くなるといいなと思いました。私はまだ18歳じゃないので選挙に行ったことは無いけど、行けるようになったら政策とかもちゃんとみて選ばないといけないと思います。

(3) アンケート結果から見た対話や議論する力に関する分析と考察

【表8】 各時の振り返り

(他者との対話を通して自分の考えをまとめることができたか)

4段階の自己評価の割合を表示(時間数は表1 単元構想に対応)

	4	3	2	1
2時間目	35.0	50.0	7.5	0
3時間目	37.1	51.4	11.4	0
4時間目	55.9	35.3	8.8	0
5時間目	60.7	35.7	3.6	0
6時間目	51.6	45.2	3.2	0

【表 9】 事前・事後アンケート結果

自分の考えを根拠を示しながら述べることができますか。				
	できる	少しできる	あまりできない	できない
事前	4.7	25.6	41.9	27.9
事後	11.6	35.6	42.2	11.1
議論するときに積極的に質問することができますか。				
	できる	少しできる	あまりできない	できない
事前	9.3	30.2	39.5	20.9
事後	8.9	48.9	31.1	11.1
議論するときに他者の主張を踏まえて自分の考えを再構築（作り直すこと）ができますか。				
	できる	少しできる	あまりできない	できない
事前	20.9	44.2	25.6	9.3
事後	22.2	60.0	15.6	2.2

単元目標の一つに、「現代の諸課題について、周囲と対話しながら学習することで協調性や平和的に議論する力を身に付ける。」を設定した。そのため、単元の中で生徒同士が対話しながら自分の考察や認識を広げて深めることを目指した。各時の振り返りでは、すべての授業で4段階中の4と3を占める割合が多く、他者との対話を通して自分の考察を行えたと感じた生徒が多い。また、事前事後アンケートでは、対話して議論するための要素を細分化して、「自分の考えを根拠を示しながら述べること」、「相手に質問すること」、「他者との議論を通して自分の考察を再びつくること」の項目をアンケートで調査した。一つ目の「自分の考えを根拠を示しながら述べることができますか。」の項目では「できない」と答えた割合の減少と「できる」と答えた割合の増加が見られる。二つ目の「議論するときに積極的に質問することができますか。」では、「できない」と「あまりできない」と答えた割合が減少し、「少しできる」と答えた割合が大きく増加している。三つ目の「議論するときに他者の主張を踏まえて自分の考えを再構築（作り直すこと）ができますか。」では、前項目同様の減少と増加が見られる。さらに、表4にある、まとめの授業の感想では、「他者から学びや気づきを得ている」ことがわかる感想が最も多かった。これらから、今回の授業実践では、周囲と対話して議論する力や対話や議論から学びを得る学習として一定の効果があったといえる。しかし一方で、今回の三つの調査項目に「できる」と回答した生徒の割合は高くない。特に、「自分の考えを根拠を示しながら述べること」については5割以上の生徒が「あまりできない」、「できない」と回答している。それぞれの項目での改善は多少みられているが、全体的にみると、自分の考えを述べることや質問することなど他者と対話したり議論したりすることに苦手意識を持っている生徒が多いことが分かった。

(4) 単元のまとめの記述内容から見た多面的・多角的に分析する力と考察する力に関する分析と考察

【表 10】 まとめの記述 多面的・多角的な内容の分類 (%)

多面的・多角的な内容を記述できた生徒…31.1%					
多面的な内容の分類（％）					
人権・経済・その他	人権・経済	人権のみ	経済のみ		
26.7	53.3	20.0	0		
多角的な内容の分類（％）					
（「ロシアとウクライナ」や「戦争当事国と周辺国」などの立場の違いが人権・経済などそれぞれの分野で書けている かで分類）					
人権・経済・国際 政治	人権・経済	人権のみ	経済のみ	その他	なし
4.4	28.9	33.3	33.3	4.4	4.4

7時間目のまとめで実施した、単元の問い「ウクライナ戦争から、私たちはどのような理由で戦争を

否定できるだろうか？」に対する記述を多面的と多角的に分けて分析した。

まず、多角的な記述として、戦争の影響として取り扱った人権と経済への影響を踏まえた記述となっていた生徒がほとんどであった。人権、経済に加えて国際政治についての影響を取り上げて書いていた生徒や、人権や経済についてもそれぞれ複数の内容を取り上げて記述できている生徒が多くいた。

次に、多角的な記述としては、人権に関する内容では、ロシアとウクライナ、政府や国民といった立場の違いに触れている生徒がいた。また、経済では戦争当事国だけではなく、国際社会全体への影響に触れた立場の違いが記述できている生徒がいた。しかし、多面的な記述ができていた生徒に比べて、多角的な記述ができていた生徒は少なかった。

このまとめの記述の結果から考えられることは二つある。一つ目は、授業ではウクライナ戦争の多面的な内容は十分に学べたが、多角的な内容を学ぶことが不十分だったことである。二つ目は、生徒が社会的事象を多角的に捉えることが苦手で、今回の単元構想では生徒の多角的に分析して考察する力を育むことができなかったことである。今回の授業では、多面的・多角的な視点を意識したつもりであったが、立場の違いに比べると、戦争の様々な側面を学ぶ時間と量の方が多かった。様々な側面を学ぶ中で、立場の違いを生徒が理解して考察できるような内容と手法の改善が必要である。

7. 実践のまとめ

分析と考察の結果から、効果が十分だった評価できるところと効果が不十分で改善が必要なところとに分類すると次のようになる。

〈 効果が十分だったと評価できるところ 〉

- ・ウクライナ戦争についての知識を深めることができ、学びの必要性を実感できる授業だった
- ・ウクライナ戦争をはじめとした世の中の課題への興味・関心を持っている生徒の割合を増加させることができた
- ・周囲と対話し議論する力を高め、周囲と関わりながら学びを深めた生徒の割合を増加させることができた。
- ・ウクライナ戦争を多面的に捉えられる生徒が多かった。

〈 効果が不十分で改善すべきところ 〉

- ・世の中の課題への興味・関心が「ある」と回答した生徒は増加したが4割にも満たず、「あまりない」と回答した割合が増加した。
→現代の諸課題に関する授業をウクライナ戦争以外の単元でも行い、1年間通して繰り返し取り組むことで改善できるのではないかな。
- ・自分の考えを述べることや積極的に質問することについて半数以上が「あまりできない」と「できない」と回答した。
→「対話・議論する力」を向上させるために、授業内容と手法を工夫した継続的な実施が必要ではないかな。
- 個人で考察する問いとグループで考察する問いを明確にして、他者と議論する時、周囲とともに最適解を導き出す時、個人で考察する時を適切に取り入れた授業を行うと改善できるのではないかな。
- ・ウクライナ戦争を多角的な分析をしてまとめることができなかった。
→立場の違いを意識させる授業内容にすることやまとめる際の観点提示にすることが必要ではないかな。

8. 今後の展望

(1) 主権者教育として必要なもの

文部科学省が2021年に出した「今後の主権者教育の推進に向けて（最終報告）」では、「したがって、主権者教育を推進する上では、正解が一つに定まらない論争的な課題に対して、児童生徒が自分の意見を持ちつつ、異なる意見や対立する意見を整理して議論を交わしたり、他者の意見と折り合いを付けたりする中で、納得解を見いだしながら合意形成を図っていく過程が重要となる。」、「現実の具体的な事

象（政治的、社会的事象）を取り上げたり、模擬的な活動（模擬選挙、模擬議会、模擬請願など）を展開したりするに当たっての指導方法の工夫改善（特に、現実の具体的な事象を取り上げる際には、例えば、異なる立場の主張、他者の利益や損失なども考慮に入れるなど生徒が多面的・多角的に考え、議論を展開できるような工夫を講じることが重要。）」と述べている。さらに、文部科学省は2022年に「次代の主権者育成に求められる 政治的・経済的教養の教育に関するタスクフォース 取りまとめ」を発表しており、この中では、「こうした観点から、学校教育においては、子供たちが現実を深く考察するために必要な基礎的・基本的な知識を確実に身に付けた上で、目の前の政治や経済を身近なものと感じ、誰かがやってくれるだろうという他人任せの意識ではなく、自発的に自分の力で現実の社会的な問題を解決できるという主権者としての感覚を身に付けるようにしていくことが重要である」と主権者教育の必要性を述べている。

これらから、文部科学省が述べる主権者教育の中で、「政治・経済を身近なものとして捉えて社会的な課題に解決しようとする感覚」、「他者と議論や対話を行って納得解を見出しながら合意形成する力」、「多角的・多面的に社会事象を捉えて議論する力」が必要とされている部分に注目して主権者教育を研究していきたい。

(2) 主権者教育として必要なもの

今回のウクライナ戦争の授業開発はある程度効果があったと言えた一方で、「社会的な問題への興味・関心をどう高めるか?」、「対話・議論する力をどう高めるか?」、「多面的・多角的のうち、多角的な考察力をどう高めるのか?」という三つの課題を発見できた。そしてこの課題は、前述した文部科学省が必要とする主権者教育を重なるものであった。そのため、今回の授業実践で見つけた課題を改善した授業開発を行えば、主権者教育につながるものになると考えることができる。

これらから、次の研究テーマの主題を「対話力の育成を目指した主権者教育—現代の諸課題を多面的・多角的に議論する授業開発—」として、「社会的な問題に興味・関心を持つこと」、「他者と対話し議論すること」、「社会的な問題を多面的・多角的に考えて議論すること」という3つの資質・能力の育成を目指した授業実践を1年間を通して行っていきたい。

9. 参考文献

- 1) 黒川裕次 (2002) 『物語ウクライナの歴史』、中公新書
- 2) アレクサンドラ・グージョン/鳥取絹子訳 (2022) 『ウクライナ現代史 独立後30年とロシア侵攻』、河出新書
- 3) 井上達夫 (2022) 『ウクライナ戦争と向き合うプーチンという「悪夢」の実相と教訓』、信山社
- 4) 小泉悠 (2022) 『ウクライナ戦争』、ちくま新書
- 5) NHKWeb ウクライナ戦争特集記事
- 6) 総務省「国政選挙の年代別投票率の推移について」
- 7) 文部科学省(2021)「今後の主権者教育の推進に向けて（最終報告）」
- 8) 文部科学省 (2022)「次代の主権者育成に求められる 政治的・経済的教養の教育に関するタスクフォース 取りまとめ」